



## 地域主導で拓いた国際交流の歴史を伝える

教育学部 教授 諸岡了介

日露戦争中の1905年（明治38）5月28日、日本海海戦にて航行不能となったロシアの特務運送船イルティッシュ号が江津市和木沖にて沈没したところを、和木地区の人々が250名以上の乗組員を救出したという出来事がありました。

それ以来、和木地区では「ロシア祭り」の開催をはじめ、この「敵味方のない人命救助」の歴史を大事にして、のちにはロシアでもドキュメンタリー映画が作られるなど、地域主導による草の根での国際交流の機会になってきました。

この歴史的出来事について、貴重な記録・和木公民館編『イルティッシュ号と和木』（1967年）に解題を付して島根大学附属図書館が運営している「しまね地域資料リポジトリ」に収録しましたが、2025年6月8日に開催された「イルティッシュ号乗組員救援120周年記念事業」では、和木の方々が続けてきた歴史保全の活動の意義を改めて確認する解説を行いました。

